

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074500259
法人名	医療法人社団 宗正会
事業所名	グループホームすまいる
所在地	福岡県福津市高平11-15
自己評価作成日	平成26年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年12月10日	評価結果確定日	平成27年3月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりの尊厳を大切にしながら、利用者様が毎日を心豊かに幸せに過ごして頂けるよう支援しております。個々のペースに合わせた介護を実践し、温かみのある介護をモットーに職員一丸となっております。地域の方々との関わりを大切にし、子供達との交流やボランティアの方の演奏会・習字指導もあります。季節毎の花見やドライブなどの外出や、中庭にて毎年ご家族参加のバーベキュー会を開催したりと色々な行事を組み込み、利用者様とご家族に楽しんで頂いております。母体となる医療機関が近隣に位置しており、医療面での安心を提供しております。また、和風平屋建ての家屋は利用者様に馴染みやすく、心落ち着く造りになっており、リビングや居室から見える中庭には四季折々の木々や草花があり季節感を十分味わえます。すずめやつばめ・ちょうちょなども見る事ができます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人としての組織力を活かし、病院やグループ内の事業所とも一体的に連携が図れ、医療ニーズへの対応や健康管理においても、本人や家族、職員にとっての安心感へとつながっている。また、災害想定避難訓練には特に力が入っており、具体的かつ明確な病院等からの応援が得られるようになっている。法人内でipadを活用した情報共有が図られており、迅速な対応と連携をよりスムーズにしている。行政やネットワークとの連携による認知症啓発にも積極的に取り組み、近隣の小中学校や商業施設等で出張講座をする等、重要な役割を担っている。更に職員の定着率も高く、入居者に対する質の高い安定したケアの提供につながっている。豊かな生活環境と、穏やかな温かみのある関わりが印象に残る。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回職員ミーティングにおいて、基本理念「安心・安全・安楽」に基づいた日々の関わりについて振り返りや確認を行っている。職員全員で理念を共有できるよう施設内数か所に掲示し、利用者さまに寄り添ったケアの実践につなげている。	玄関、食堂、スタッフルームに理念を掲示し、都度繰り返し業務に反映している。月1回はスタッフ会議において個別の対応や気づきについて意見を出し合った上で情報共有を行うことで、常に入居者の『安楽な生活』が営まれる事を目指している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の敷地を利用して開催される地域主催の「竹灯まつり」では利用者様の灯籠を毎年作成し飾ってもらっている。夜開催の祭りの為、ご家族やボランティアの方の協力を得て全員で参加している。年2回の地域草取りは毎回参加している。	地域の中で平素より挨拶交流をしており、自然に認知してもらえるよう努めている。11月及び3月は、地域住民共同(消防参加)で夜間想定も含めた避難訓練を開催している。また地域の草取りにも参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年開催される福津市主催の認知症啓発事業や、小・中学校・地域企業に向けての認知症サポーター養成講座にて、認知症の方への理解や支援を地域の方々へ呼びかけている。中学生の職業体験も行っている。	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加の方々に当施設での取り組み状況や報告等分かりやすく伝わるよう、内容を工夫しながら会議を行っている。日頃の様子をスライドショーで観てもらいながら会議を進めたり、昨年に引き続き3月には夜間想定避難訓練を消防署員立ち合いで行った。さらに内容の濃い会議にしていきたい。	多目的で使っている和室にて、年6回の予定で定期開催している。市役所職員や民生委員で地域の情報交換も含め内容も充実している。毎年地域の『竹灯まつり』に法人で参加している関係で、運営推進会議を同時開催するように予定していたが、今年度は台風で祭りが中止となったため予定の会議も中止となっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、福津市高齢者サービス課の職員の出席を得ている。市主催の認知症啓発事業や「認知症セーフティネットワーク蓮華草」の活動を通じ、市担当者との連携を図っている。また昨年度より福津市介護保険運営協議会にも参加している。	4～5年前発足の福津市主導の介護支援事業所の集まりに参加し、持ち回りにて商業施設や学校等で認知症啓発の出前講座や接し方の講習等を行っており、交流は盛んである。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人では2002年「抑制廃止宣言」をし、抑制廃止対策委員会での活動やスピーチロックに関するアンケート調査を毎年職員に実施し振り返りや確認を行っている。当施設でのミーティング時、スピーチロックに当てはまる言葉を使ってないか職員で確認をしている。玄関施錠は防犯の為夜間のみ。	平素より、スピーチロックをしないよう、スタッフ同士気づきを言い合うようにしている。法人としても年間計画の中で『抑制委員会』を開催し、理解を深めている。主治医とも検討を重ね、転倒等のリスクが高いと判断された場合には、家族とも共有認識を図り、同意を得た上で環境整備の工夫を行なっている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。研修を毎年行い職員が再確認をし常に意識づけを行うようにしている。管理者は職員が相談しやすくストレスを溜めない環境作りに努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、資料を用意し入居契約時に説明を行っている。内外の勉強会研修に参加し、内部での伝達を図り職員全体で理解を深めている。必要時には活用できる体制作りに努めている。	現在、権利擁護の利用者はいないが、入居時に資料を用い制度の概要の説明をしている。法人内の研修も実施されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分説明をして契約を結んでいる。その際不安や疑問を尋ね理解・納得を図っている。また、入所後に疑問等がある場合はいつでも尋ねて頂くようにお伝えしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見はその都度聞き、真摯に受け止め対応している。運営推進会議ではご家族数名参加され、市職員や地域住民の方々と意見交換が行われている。また、玄関に「ご意見承り箱」を設置し意見を出しやすいよう配慮している。	法人内で、要望等は意見箱にて無記名の『サービスアンケート』を実施している。平素でも、多ければ1日4～5件の家族面会があり、家族とスタッフが対話できる関係がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体ミーティングを開催し、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。また、年2回の個人面談や法人として年1回職員の無記名アンケートを実施し、結果を職員に知らせている。業務改善委員会を月1回開催している。	法人内で、スタッフ向けの無記名アンケートも実施している。また月1回はスタッフ会議もあり、どんどん意見が言い合えるような雰囲気作りがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個人面談や職員管理シートにて、個々の努力や実績、勤務状況の把握を行っている。面談・職員アンケートにて職員の要望や意見を聞き、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークを通じて職員の募集を行い、年齢や性別等を理由とする排除は行っていない。職員が生きがいをもち勤務できるように、資格取得や趣味の為に勤務調整にも柔軟に対応している。法人内に託児所を設けており子育てしながら勤務できる環境を整えている。当施設にも託児所利用の職員がいる。	女性の多い職場らしく法人内には夜勤者の対応もできる託児所も整備されている。勤務においては、①リーダー研修等の外部研修や資格取得試験を受けやすい②連勤にならない勤務配置1日の勤務でピークタイムを避け入居者の日課を考慮した臨機応変な休憩時間の確保が配慮されている。またスタッフルームが広い等の細かな配慮もある。2年に1回の職員旅行も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングでは毎回人権についての意識付けを行っている。毎年市主催で開催される認知症啓発事業では他事業所との共働にて認知症を理解してもらうDVDを作成したり、10月はグループホームを広く知ってもらうための発表を行った。	福津市主導で蓮華草の会という認知症啓発活動に参加し、地域とも認知症について考える機会を持っている。、事業所内でも研修を実施することで常に尊重しながらケアにのぞむよう実践している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自と法人全体で計画的に研修を行っている。案内を掲示し参加を募ったり管理者が参加を促すなどし質の向上に努めている。法人での研修等はipadにて見ることが出来るようにしている。職員同士アドバイスしながらケアを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症キャラバンメイト連絡会のメンバーやGH協議会会員として活動している。今年3月には福津市にて新たに開設するGH職員の実習受け入れも行った。10月福津市介護保険運営協議会の方々と他施設訪問実施。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活が始められるよう職員が本人の困っている事や不安な事要望等をしっかり傾聴するようにしている。本人が伝えきれない事などはご家族に尋ね生活背景も含め職員全員で情報を共有し支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所申込み時にご家族の不安や思いを聞き、また当施設の情報も提供している。入所決定後はさらに詳しく不安や要望等を傾聴し、入所後はご家族へこまめに状況を伝え安心して頂けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族のニーズも合わせ今何が必要なのかを見極め、優先順位も考慮し対応していくように努めている。あらゆるサービスの利用ができる事も伝えている。法人内他サービス部署との連携も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者様の心に寄り添い、人生の先輩であるという尊敬の念を持って接し、日常の関わりの中で信頼してもらえる一人の人間として接するように心がけている。接遇についての研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様と家族の関係を熟知しながら、双方の様々な思いに寄り添い、お互いの関係を大切にしている。ご家族来訪時には生活の様子をお伝えし、「すまいる新聞」「すまいるだより」を定期発行している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はしておらず、いつでもご家族・友人が来訪でき、ゆっくり歓談できるよう配慮している。ご家族希望で米寿のお祝いを当施設にて行われ共有スペースの和室を提供した。	家族の訪問に合わせ、希望により有料であるが食事を一緒に摂れるようになっている。近隣より多くの形態のボランティアを受け入れるなどして関係性を継続できる試みがある。クリスマスのミサやクリスマスへの参加等も支援されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が円滑に仲良く過ごせるように、個々の性格を十分把握し、食堂の席の配置を調整したり、レクリエーションの際には特定の利用者が孤立しないように配慮している。職員が話題を提供し和やかに会話が始まる事もある。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同事業所施設内に移られた際には出来るだけ会いに行くようにし、本人またはご家族に声掛けするよう心掛けている。他施設に移られた後も、本人やご家族に会いに行き、お互いの近況を伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自然な会話の中での意向を聞き逃さないようにし、職員間で共有している。ご家族の協力も得ながら、センター方式を活用した情報収集を行い介護計画に反映させている。言葉で思いを伝えられない方は表情や仕草等で思いを推し量り、心身共にご本人が穏やかに過ごせるよう努めている。	入居時のセンター方式の一部書式や、随時家族とのコミュニケーションや独自のアセスメントで把握されてる。月1回の会議において個別担当からの報告を元に情報共有されている。3ヶ月ごとの見直し期間となっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は、本人・家族・関係機関等より収集し、入居後も安心して生活できるよう把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・生活チェック表・排泄チェック表等を毎日記録している。申し送りやミーティング時には、一人ひとりの様子を報告し職員間で話し合っている。職員全員が把握する事で小さな変化も見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。3か月ごとのモニタリングやカンファレンス、申し送り等にて現状の確認と見直しの必要性について検討している。	3ヶ月1回のモニタリングにおいてと家族とのコミュニケーションを元によく情報共有され、具体的かつ細かな計画立案がなされている。平素からの本人に対する気づきも重要とされ反映できるようにしている。	気づきがあり、情報共有がよくされている。本人主訴や思いの部分である本人らしさが薄くなり、家族主体になりがちである。本人の意向や思いについて掘り下げられるとより個性が高まると思われます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、介護・排泄チェック表を毎日個別に記入し、小さな気づきや介護の工夫等を職員間で情報共有している。また、個別記録を基に実践や介護計画見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じ出来る限り柔軟な支援やサービスの提供に取り組んでいる。困難な事例が発生した場合には法人内他施設の意見も参考にしながらサービスの実現が出来るような支援体制がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習字・歌・ハーモニカなど様々なボランティアの方が来て下さり、利用者様に楽しんで頂いている。また、地域の方・消防署・地域包括センター等と協働しながら、安全で豊かな生活になるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医について確認を行っている。月1回定期受診をしており、その際には家族と職員が同行し、情報や方針の共有を図っている。ipadにて皮膚科医師に皮膚状態を送信し、指示を仰ぐ場合もある。	現状は母体の病院が主治医の入居者が多く、家族とともに同行している。その他の医療機関の希望にも対応している。皮膚疾患であればipadで画像を送ってから指示を受けるなどの柔軟な対応ができる。来年より協力歯科医より衛生士の定期訪問を予定している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の病院より週1回定期的に看護師が来訪し、バイタルチェックや体調の観察等を行っている。その際、介護職員が気づいた小さな事でも報告するようにしている。また状態の変化等あれば迅速に連絡を取り、医療との連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の状態等を詳しく伝え、介護添書をお渡ししている。病院の相談員や主治医と連絡を取りながら、早期退院に向け取り組んでいる。併設病院が入院先になることが多く、入院後の情報交換にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や必要時、重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族の意向把握に努めている。出来る限り応えていく方針を伝えている。本人・家族の気持ちの変化に対応出来るよう、その都度医師を交えて説明を行い納得した上で判断をして頂いている。	母体病院より、週に1回看護部長による状態確認や院長の訪問も随時行われており、入居者や家族の安心につながっている。医療との密な連携のもと、本人、家族の意向に出来る限りの対応を行うことを説明し、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・急変時のマニュアルを作成し、職員全員が対応できる体制を作っている。また、事業所内にて応急手当や初期対応の確認、外部での救命講習にも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内で年4回避難訓練を実施している。昨年11月・今年3月と消防署立ち合いのもと夜間想定避難訓練を実施し、近隣住民・母体法人職員参加で所要時間を計測し行った。非常時の備蓄品は常時用意している。また、法人託児所の避難場所として当事業所が指定されており、豪雨時実際に避難経緯あり。	災害時には具体的な対応と想定がなされており、地域の応援や法人内の応援体制があり、共同での訓練も頻回にある。訓練もその都度出火元を変更し、それに応じた避難経路を確認するなどしている。その様子は法人内のipadで確認できるようになっている為、業務で参加できなかった職員にも共有できるようになっている。備蓄は水やカップラーメン、レトルト食品等、3日分程度は準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格尊重は当然の事ながら専門職として重きを置き職員間で気づいた点を注意しあえるようにしている。接遇研修は月1回のミーティング時に随時行い、法人内研修にも参加している。法人にて接遇に関する家族アンケート実施等を行い、結果を職員にフィードバックし意識付けを行っている。	ロビーにあるバイタルや入浴をチェックするホワイトボードは個人をイニシャル表記しており、個人への配慮がある。誘導時も、対象者を個人名を大きな声で呼ばない等の配慮がある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を大切に、本人の希望や思いを表しやすい雰囲気作りを心がけ、自己出来るよう働きかけている。また、ご家族からも本人の思いを聞き希望に添えるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを大切にし画一的なケアにならないよう、ミーティングや連絡ノートにて繰り返し職員へ伝えている。「利用者様第一」を念頭に置き希望に添えるよう心がけながらケアにあたるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の希望に応じている。毎朝お化粧やアクセサリをつけたり、職員が髪を整え髪どめやカチューシャをしたり支援している。理・美容は訪問サービスを利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に合った食事形態で対応している。状態に合わせて出来るだけ形状を残し、食事を楽めるように工夫している。時には手作りバイキングやおせち料理、外での喫茶をしたりと食を楽しむ機会を多く設けている。職員はさりげなくサポートできる所に配置し、一緒に食事を楽しんでいる。準備や後片づけも一緒にしている。	基本的には法人厨房にて朝食以外作られており、軟飯、アレルギー、嗜好等の細かな要望にも対応できている。食事を一緒に配膳したり、年1回は家族を交えてのバーベQ等も実施されている。各行事にはホームで行事食を調理している。正月はお重に盛り付ける演出もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し、毎日個別に食事・水分量のチェックをし、健康状態の把握に努めている。水分は毎食事以外でも体操後・おやつ時・寝る前にも出し、しょうが湯やココアなど趣向を変えながら摂取しやすい工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導のもと、一人ひとりの口腔状態や体調に応じた口腔ケアを毎食後行っている。協力歯科医院が隣接しており、歯科不調時や本人希望時は歯科受診の支援も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表により、排泄状況やパターンの把握に努めている。ほとんどの方がトイレでの排泄できるよう支援している。他施設より入所の方がオムツからパンツに変わり、夜間トイレでの排泄になったことを喜ばれている。	排泄動作の安定や姿勢保持に留意し、必要に応じて2名での介助を行い、トイレでの排泄を大切にしている。排泄のパターンの確認も徹底できるようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の把握を個別にしている。食材や水分量・乳製品・運動等により、出来るだけ自然排便となるよう支援している。座位保持が難しい方でもトイレでの排便がスムーズであれば職員2人にてポータブルトイレでの排便介助を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後入浴介助を行っている。希望や体調・状況等にて柔軟に対応している。また、清潔が保たれるよう入浴チェックを実施している。より安全に入浴してもらえるよう、職員2人介助にて対応の方が増えてきている。入浴剤や菖蒲・柚子湯の演出や、入浴後個別で保湿乳液使用支援もしている。	重度化へと移行している中で、毎日午後に入浴時間を設け、3、4人ずつ入浴を実施している。この一年は入院者もなく清拭対応者もない。必要な方は2人対応で浴槽に入ってもらっている。また、排便が多かったり、希望によっては入浴予定を柔軟に対応している。入浴後の保湿には特に注意している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごす方がほとんどだが、体調や気分によっていつでも自室にて休息できるよう声掛けや見守りを行っている。日中の活動を促し生活リズムを整えながら夜は安心して眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬内容・目的を理解しており、薬の管理及び服薬時は必ず職員が関わり、確実に服薬して頂けるよう支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や興味のあることを大切に、職員やボランティアの方と一緒に習字や生け花・散歩などを楽しみ充実した日々を過ごしてもらえるよう支援している。また、食器拭きや洗濯物たたみなど出来ることは無理のない範囲で力を発揮してもらっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望により、スタッフが付き添い散歩や買い物を楽しんだり、定期受診での病院への往き来や厨房への食事取りなど戸外へでかけられるよう支援している。また季節の花見やドライブなど法人の車輛を使用し、ご家族やボランティアの方の協力を得ながら行っている。	おやつを買いに近くのコンビニに出かけたり、受診を兼ねて、法人内の託児所に寄る等の外出の支援がある。日常的にも散歩にはよく出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が自分でお金を管理する事は現状では難しく、利用者間でのトラブルを防ぐ為にも家族からお金を預かり、個人別出納帳にて管理している。本人希望時必要に応じてお金を使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時は電話を使用できるようにしている。お孫さんからの葉書を楽しみにされている方や、手紙を出したい方がいれば支援している。毎年年賀状は全員が数枚ずつ出せるようお手伝いしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建て和風の造りで、高齢者になじみやすい雰囲気になっている。リビングから中庭の季節の花や木々を楽しめ、小鳥の姿もみられる。照明はこだわって設置しており、強い灯りにならないようになっている。生花を絶やさないように、季節を感じ取ってもらえるように配慮している。	和が感じられる平屋であるが、高い吹き抜けに天窗や障子から柔らかい光が差すリビングや、多目的に使う掘りごたつのある和室があるなど、広く開放的で落ち着いた環境である。毎日夜勤者が感染予防も兼ねフロアを拭き上げるなど、清潔保持も徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の思いを傾聴し、その日の気分よっての居心地の場所作りに配慮している。気の合う方同志気兼ねなくおしゃべりできるように席を近くするなどの工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広めに設定しており、本人馴染みの家具や仏壇・家族写真等、本人とご家族が相談し配置されている。また、本人作の習字や油絵を壁に飾りギャラリーのようにしている居室もある。今年の秋には共用スペースの和室にて、米寿のお祝いをご家族水入らずでされた方もいる。	居室は趣味の絵画や書道の飾り付け、馴染みの家具類も自由に持ち込めるようになっている。また、出窓があったり、和室・洋室もあつたり各部屋少しずつ間取りも違って個を感じられる配慮がある。さらに、早出勤務者が毎日掃除機をかけたり、換気もこまめに対応している等、清潔保持も徹底され、ポータブルトイレ常設の居室においても匂いが気にならない快適さがある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分からなくなる方もいるので、分かりやすく表示した紙を貼っている。利用者様に混乱が生じた時は職員が寄り添い安心できるよう声掛けしている。建物内部全体に家具等の配置を工夫し、転倒防止に配慮している。		